

一般質問 「スロバキアとのホストタウン交流について」

【質問者14番： 議員】

議長のお許しをいただきましたので、発言通告にしたが従い、質問いたします。

岐阜市とスロバキアとのホストタウン交流についてお尋ねたずします。

昨年12月に、東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当大臣より、政府が進めるホストタウンに全国で47件を第3次登録し、岐阜市がスロバキア共和国を相手国としたホストタウンに登録されたとの発表がありました。

ホストタウン交流とは2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催かいさいに向け、スポーツ立国、グローバル化の推進すいしん、地域の活性化、観光振興等しんこうとうに役立てるとの観点かんてんから、参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互そうご交流こうりゅうを図る地方公共団体をホストタウンとして全国に広げることが目的とされています。

【質問者15番： 議員】

岐阜県内では、岐阜県と高山市、下呂市の共同申請で、第1次登録としてイギリス、フランス、アメリカを相手国に、また、岐阜県と各務原市きょうどうの共同申請しんせいで、第3次登録としてイギリスを相手国に登録されました。今月7日に発表された第4次登録では、羽島市がスリランカを相手国に登録され、全国での登録件数は、現在179件となっています。

ホストタウンの事業イメージは、オリンピック出場選手との交流を通じ、スポーツのすばらしさを学ぶ。大会参加国の方々との交流を通じ外国を知り日本を伝える。パラリンピック出場選手との交流を通じ、共生を学ぶとなっています。

昨年のリオデジャネイロ大会の参加選手は、オリンピックでは28競技306種目で約1万1,000人、パラリンピックでは、22競技528種目で、約4,350人となっています。2020年の東京大会も、これに匹敵ひってきをする数の選手が参加すると予想されています。

【質問者16番： 議員】

さて、交流計画の概要がいようには、『「信長公のおもてなし」が息づくホストタウン～岐阜市とスロバキアとの相互交流～』とあり、在スロバキア日本国大使館を通じたスロバキアの首都ブラチスラバ市との姉妹都市交流の提携ていけいをきっかけに都市間交流を推進すいしんし、スロバキア選手団の事前合宿の誘致ゆうちに取り組むこととなっています。

そこで、国際課を所管しょかんする市民参画部長にお尋ねをいたします。

1点目、スロバキアを受け入れるにあたって、様々な調査をされたと思いますが、スロバキアではどんなスポーツが盛んで、どんな競技種目で2020年の東京大会に参加できそうでしょうか。

2点目、様々な競技がある中、岐阜市の施設で受け入れができない競技も

あると思います。その場合には、岐阜県や近隣自治体の施設をお借りしなければなりません。そういうことは可能でしょうか。また、スポーツや障がい者選手の対応等があると思いますが、市役所内の連携はどうでしょうか。

3点目に、スロバキアとの交流について、具体的な今後のスケジュールはどうなっているのでしょうか。

以上、3点 お答えください。

答弁 市民参画部長

【答弁者： 市民参画部長1】

2020年東京オリンピック・パラリンピックのホストタウン交流に関する御質問にお答えします。

最初に、スロバキアで盛んな競技についてお答えします。

昨年のリオデジャネイロオリンピック出場のスロバキア選手団は、選手51人が12競技に出場しており、その内訳は、人数の多い順から陸上16人、カヌー12人、射撃5人、競泳、卓球、テニスがそれぞれ3人と続きます。

スロバキアは、これまでの夏季オリンピック競技の中で、カヌーが18個と最も多くメダルを獲得していることから、カヌー強豪国として知られております。カヌーのほかには陸上、射撃、競泳、柔道などでメダリストを輩出しており、2020年東京大会においても、これらの競技において出場の可能性が高いと思われま

す。また、リオパラリンピックにおいては、選手32人が9競技に出場しており、自転車、射撃、そして、球技の一種であるボッチャの合わせて3競技で金メダルを獲得しております。

【答弁者： 市民参画部長2】

次に、市役所内及び県、近隣自治体との連携についてお答えします。

このホストタウン交流の取り組みを一過性の事業とすることなく今後のま

ちづくりに生かしていくためには、教育や観光を初め、幅広い部署が関わることにより、それぞれの分野でメリットを引き出すことが重要であると考えています。また、パラリンピック競技を受け入れる場合は、スポーツ施設のみならず周辺道路や宿泊施設など、選手団の動線^{どうせん}を意識した環境の整備が必要となる場合がございます。

※一過性：現象などが短い間におこり、すぐに消えること。

【答弁者：市民参画部長3】

こうしたことから、ホストタウン交流を推進する体制として、今年度から、市役所内関係部局で構成する「岐阜市ホストタウン推進本部」を設置し、市役所内の様々な部局と連携^{れんけい}を図りながら、交流計画に基づく事業^{じっし}を実施してまいります。

特に、事前合宿の受け入れについては、市民参画部^{しみんさんかくぶ}とスポーツ施設^{しよかん}を所管する教育委員会事務局が協力して進めていくものと考えています。

また、岐阜市の施設では対応が困難な競技については、県や近隣自治体と連携^{れんけい}を図りながら広域的な対応^{こういきでき}を検討してまいります。

さらにスポーツ界や経済界などの民間の団体にも参加していただき、官民^{かんみん}一丸^{いちがん}となった推進体制^{すいしん}を作ってまいります。

【答弁者： 市民参画部長4】

最後に、今後のスケジュールについてお答えします。

今月3日から9日まで、岐阜市代表団をスロバキアに派遣し、事前合宿の受け入れに関する協議を行うとともに、来年度のスロバキアから岐阜市への事前視察^{じぜんしさつ}を要請^{ようせい}したところです。今後、スロバキアオリンピック委員会や各競技団体との事前合宿の受け入れに関する覚書^{おぼえがき}の締結^{ていけつ}を目指してまいります。

あわせて、駐日^{ちゅうにち}スロバキア共和国大使館の協力を得て、スロバキアの文化や歴史を紹介する市民向けの交流事業も実施し、市民の皆様^{かんみん}にスロバキアを身近に感じていただくなど、ホストタウン交流に向けた官民の取り組みを本格化してまいります。